

## 他団体や公共施設とのつながりを求めて ～実践例から見る成果と課題～

ちば市ネイチャーゲームの会 御須裕子・今井美枝子

### はじめに

ちば市ネイチャーゲームの会は、春夏秋冬の年4回、市内各所の公園にて季節の定例会を実施しています。近年、県の公園施設からネイチャーゲームの依頼がある他、特に19年度は、各施設等とのつながりをもった事業の実践が見られました。そこで、どのように行政や他団体と関係を結んでいったか、その経緯から学んだこと、これからの課題として見えてきたこと等を報告します。また、過去に本会がそうであったように、現在各団体との関係を模索中の地域の会への提案として読んでいただければ幸いです。実践内容は、どれも興味深いものばかりでぜひともご紹介したいのですが、紙面の関係上やむなく割愛させていただきます。

### 1. 実践内容

開催日	名称	テーマ	会場	協力機関	関係性
4/22	春の会	春と遊ぼう	千葉市都市緑化植物園	-	-
6/4	手作り環境博覧会		千葉市文化センター	博覧会実行委員会 千葉市環境調整課	出展協力
6/22	青葉の森フィールド教室	自然の万華鏡を作ろう	千葉県立青葉の森公園	同公園事務所	事業依頼
7/21	夏の会	夏の夜の森で遊ぼう	千葉市YHキャンプ場	-	-
8/19	千葉市エコ体験スクール	いのちのつながり～地球のことを考えよう～	千葉市都市緑化植物園	千葉市環境調整課 千葉県環境財団 千葉市民活動センター	事業委託 公募案内
9/29	青葉の森フィールド教室	木と遊ぼう	千葉県立青葉の森公園	同公園事務所	事業依頼
10/7	秋のイベント	環境学習	習志野市本郷公園	ほたる野を守るNORAの会(NPO団体)	講師派遣
10/14	秋の会	太古の味見未来への夢	千葉市立加曽利貝塚博物館	加曽利貝塚博物館 縄文土器作りの会	講師依頼
11/10	青葉の森フィールド教室	木の実で遊ぼう	千葉県立青葉の森公園	同公園事務所	事業依頼
12/16	冬の会	きたかぜとあそぼう	千葉ポートパーク	千葉ポートタワー	会場借用 講師派遣

### 2. 詳細（つながりを持った経緯）

◆応募〈ウチもやりたい！〉千葉市エコ体験スクールの例  
以前から行政サイドで実施されていた当該事業が、18年度から一般公募制となり、実施団体を募集するようになりました。行政関係者に応募条件を尋ねてみたところ、「千葉市民活動センター」の登録団体に募集案内を送付しているとの情報を聞き、早速同センターの登録団体手続きを取りました。その後、19年度の実施案内が送付され、会員と協議の上応募し、実施する運びとなりました。



◆ひらめき〈みんなで考えると何かが生まれる！〉子どもゆめ基金助成事業秋の会の例



日本協会より募集案内のあった「地域ネイチャーゲーム普及促進フェア（子どもゆめ基金助成事業）」で、秋の会を予定していた加曽利貝塚がその行事企画案〈地域の自然や歴史、文化などをテーマに、地域ごとの特色を活かして…〉にぴたりと当てはまることで応募しました。通常は、午前中だけの実践ですが、午後の活動も必要となります。そこで「昼食はどうしよう」「何やろう」等と皆で案を出し合っているうちに、火おこしができる会場であること、縄文時代の達人や土器作りの名人がいることから、加曽利貝塚博物館及び、土器作りの会の方に講師をお願いすることになりました。同博物館とは、以前から別の事業でつながりがあったのですぐに快諾いただきました。会員の知恵を出し合ったことで話が大きく発展し、新しい出会いも生まれました。

◆交渉〈言ってみるもんだね！〉冬の会の例

冬の会は屋内でのクラフト製作をプログラムに取り入れています。そこで毎回問題となるのが会場の選定。良い公園があっても適当な屋内が無い、また逆も然り。この回は担当チーフの動きやすい千葉ポートタワー付近を候補にしましたが、良い屋内会場がありません。しかし、大胆にもチーフは、千葉ポートタワーに1階フロアを貸してもらえないか直接交渉に行きました。すると先方でも、冬のイベントを探していた最中であることも相まって話が進み、午前中は本会のイベントにフロアの占有を認めていただき、そのお礼として、午後はタワーで募集したお客さんに、無償ではありますが「りんごで作るサンタクロース」の講師を務めることになりました。双方、渡りに船の企画となりました。



◆登録申請〈とりあえず申請しておくか！〉青葉の森フィールド教室の例

定例会は、市内の各公園管理事務所に使用申請を提出し実施しています。ある時、新たなイベント案を探していた企画担当者が、公園使用申請書類を見て、本会の存在を知ったことで、事業の依頼が来るようになりました。「青葉の森フィールド教室」は平成17年度から始まり、年1回、2回と徐々に回数が増え、19年度、20年度は年3回の行事依頼がありました。また別の公園では、ある小学校から自然教室講師の相談を受けた折に、担当者が公

園使用申請の書類の中から、本会をご推薦いただいたこともあります。

◆個人のつながり（やあやあよろしく！）



千葉市手作り環境博覧会の例

「ちばし手作り環境博覧会」に出展参加しました。これは環境月間である6月に環境団体・企業・行政によって、数年前から実施されている展示会です。その出展は、知り合いにその募集方法を聞き、応募しました。また、千葉市都市緑化植物園では会員のひとりがボランティアとして活動しているので、会場の利用に際して、快く利用承諾をいただいています。このように個人が持っているつながりも会の活動に大きく役立ちます。



### 3. 成果

各所と協力関係、依頼事業などを受けることで次の成果がみられました。

◆知識の広がり 千葉市エコ体験スクールでは「環境教育アクティビティの実践」、秋の会では「火起こし体験や縄文スープの調理」など、専門家の知識や技術をプログラムに取り入れることで、参加者はもとより会員自身が新しい知識を吸収し、同時に会員研修にもなりました。

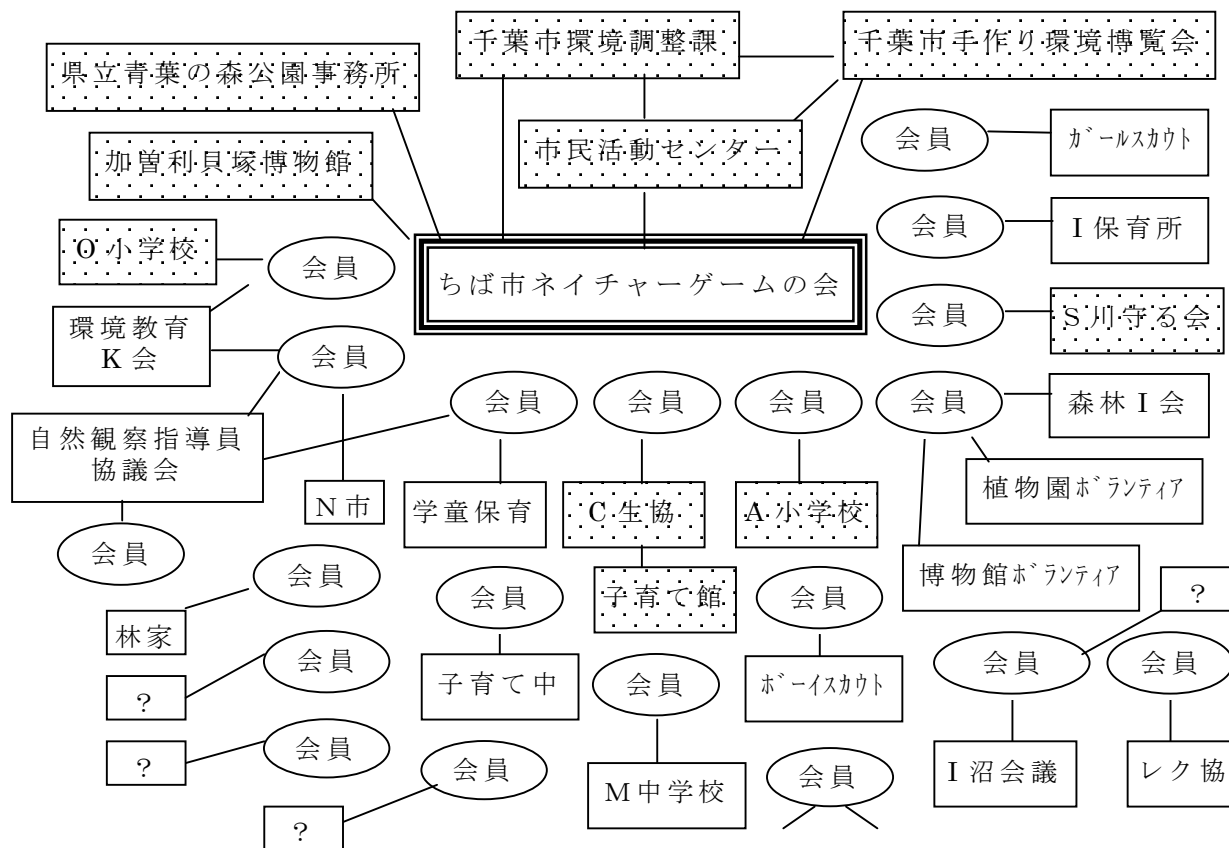


◆スキルアップ 前記のように、年9回の実践があります。ネイチャーゲーム実践の機会が増え、フローラーリングを踏まえたプログラム作り、ゲームのねらいの再確認など、ネイチャーゲームの理念に基づいた話し合いをする中で、会員各自の指導技術も磨かれていきました。また、他団体や公共施設の方々と打ち合わせや反省会を持つことで、第三者への活動の要求に対応できる体制も整い始めました。

◆会員同士の協力体制 開催回数の増加に伴い、会員同士が顔を合わせる機会が多くなり、ひとつの事に向けて共有、実施していくうちに、協力体制もしっかりと養われていきました。もちろん、実践中のピンチもたまには起きます。でも、急なプログラム変更や、対処する会員の機転などに対してすぐに合意形成が得られ、毎回何事もなかったように終了しています。

### 4. 人間関係マップ

次に、会や会員のつながりを図に表してみました。こうして会員の活動や他団体との関係を改めて眺めることで、まだまだ連携して事業を実施できる箇所が多くあることに気づきました。協同、委託、依頼、連携、支援、協力、後援、共催・・・、とつながり方は色々と考えられますが、個人の力や関係をうまくコーディネートしていくことで、地域の会の活動が広がっていくことが可能になると思います。



は最近ちば市ネイチャーゲームの会とつながりのあった団体・施設・機関

## 5. 課題と展望

他団体や公共施設とのつながりを通して、本会の活動の広がりがみられました。そこで見てきた課題や展望があります。

1つ目として、会員の増員です。内容のマンネリ化や会員の疲弊を防ぐためにも、新規会員の募集を常に行っていくこと、活動休止会員に、今、社会から求められているネイチャーゲームの役割や楽しさを伝えもう一度活動の輪に誘っていくことが一番の課題です。

2つ目に、会員相互の研修です。どのような条件で依頼が来ても、ネイチャーゲームの理念に沿ったプログラムを実践できるようにすることです。それには、フォローアップセミナーや日本協会のアドバンスセミナー等積極的に参加していく環境を整えていく必要があります。また、本会からコーディネーターやインストラクターの技術や資格を身につけ自信を持って活動していける会員を増やしていきたいと考えています。

3つ目に地域とのつながりです。千葉市外に居住する会員が、地元で活動していくための足がかりとして、20年度は秋の会を隣接する市で開催することになりました。今後も市内のみならず近隣地域へもネイチャーゲームの普及に努めていきたいと思ひます。

以上の報告が、少しでも他の地域の会の参考になれば幸いであることはもとより、本会の会員に改めて会の概要を眺めてもらうことで、今後の活動への良い起爆剤なることを願って、報告を終わりにいたします。